

論文審査結果報告書

論文提出者氏名 岩鍋 光希子

学位論文題目 実験的口呼吸が作業能率に及ぼす影響について

審査委員（主査）鱒見 進一 印

（副査）牧 憲司 印

（副査）小野 堅太郎 印

論文審査結果の要旨

鼻呼吸は本来人間の生理的な呼吸様式であるが、鼻炎等により鼻閉が生じると正常な鼻呼吸が障害され、頭痛、疲労感、睡眠障害、日中の眠気、注意力の低下等により QOL が低下すると報告されており、本研究は、常時鼻呼吸者の鼻孔を鼻栓で閉塞することで実験的口呼吸を作り出し、鼻呼吸および口呼吸における課題の作業能率について比較検討することにより、口呼吸が集中力あるいは注意力の低下にどの程度関与しているかについて検討したものである。

通常の呼吸様式が鼻呼吸と判定された被験者を、鼻栓をして実験的口呼吸群を実験群、何も行わない鼻呼吸群を対照群として、27名を対象にストループカラーワードテストを、34名を対象に内田クレペリンテストを実施している。評価項目は、ストループカラーワードテストでは反応時間と誤答数、内田クレペリンテストでは全平均作業量、前半平均作業量、後半平均作業量、後半開始5行平均作業量および特定行誤答数とし、それぞれについて2群間での比較検討を行っている。

その結果、ストループカラーワードテストでは、対照群に比べ、実験群の方が誤答数の増加傾向、反応時間が延長すること、また、内田クレペリンテストでは、全平均作業量、前半平均作業量、後半平均作業量、後半開始5行平均作業量が、対照群に比べ実験群の方が有意に減少し、通常の呼吸様式が鼻呼吸の者が、一時的に口呼吸になることで作業能率が低下することがわかったとしている。

以上のことから、実験的口呼吸は、集中力および注意力の低下に影響し、作業能率の低下につながる可能性が示唆されたが、今回の結果は、一時的に口呼吸となった場合であるため、常在的口呼吸者に当てはまるかどうかについては、今後検討する必要があると結論づけている。

本研究は、鼻呼吸および口呼吸における課題の作業能率について比較検討したものであり矯正歯科臨床において非常に有意義な論文である。公開審査における質疑に対しても適切に回答が得られたことから、本審査委員会は学位論文として価値あるものと判断した。